

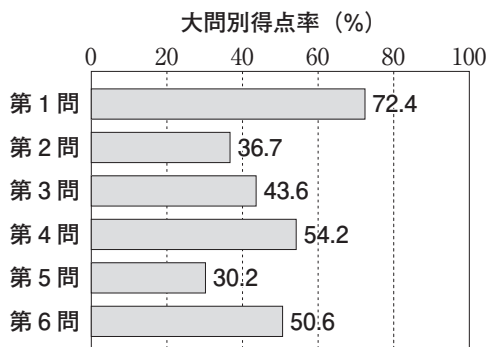
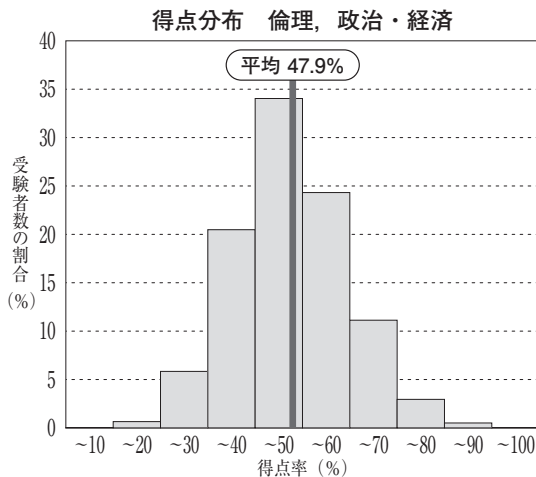
倫理, 政治・経済

曖昧な知識では対応できない設問で多くの受験者が落としている。

I. 全体講評

「第3回6月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、47.9点であった。東進のセンター試験本番レベル模試は2月から12月の直前期まで毎回本番レベルで出題されるが、今回は50点に迫るところに至り、今年最高を記録した。

全体としては政治・経済の方が良い出来であったが、これはセンター試験本番にも当てはまる傾向である。近年の「センター試験 倫理」は消去法の効かない8択問題が増えており、正確な知識のない受験生はこれに大いに苦しめられている。早めに全分野に目を通し、知識を磨いていくことが必要であろう。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

大問としての得点率は高かったが、学習はまだまだ不十分

大問の得点率は72.4%と、高かった。ただ、グラフや文章についての平易な読解問題が5問中2問を占めていたので、当然といえば当然の結果である。心理学に関する知識の問われた問5 [5]では正答率が約40%にとどまったところから見て、学習が十分な状況とは到底言えない。

第2問 源流思想・日本思想分野

まだ学習がほとんど進んでいない状況がうかがえる。

大問の得点率は36.7%と、倫理分野のなかでは最も低かった。正答率が50%を超えたのは問7 [12]の文章読解問題だけであり、受験者の多くがほとんど未修の状態で臨んだと思われる状況がうかがえる。特に鎌倉仏教について問われた問3 [8]は、決して難問ではないが、正答率はわずか7.6%にとどまった。「題目」と「公案」を6割以上の受験者が間違えたというのはショッキングな結果と言えよう。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

空欄補充の8択問題で多くの受験者が躓いている。

大問の得点率は43.6%と、日本思想分野より上回った。ただ、正答率が50%を超えたのは文章読解問題以外では1問のみであり、状況はほぼ同じである。正答率が25.2%と最も低かった問3 [15]は、第2問で最も悪かった問3 [8]と同じく、空欄補充の8択形式であった。この形式の設問は正確な知識がないと点数にならないので、そのつもりで学習を進めなければならない。

第4問 人権の国際化

おおむね良かったが、消去法の効かない設問には対応できない受験者が多かった。

大問としての得点率は54.2%と、政治・経済分野では最も高かった。正答率が低かったのは、23.5%にとどまった問8 [27]である。3個の短文をそれぞれ正誤判定せねばならず、消去法が効かなかったことが大きかったと考えられる。

第5問 地域的経済統合

未修の受験者が多かったとみられる。また難問が多く、得点率は低かった。

大問としての得点率は30.2%と、大問中最も低かった。比較的難しい設問が多かったことと、政治・経済でも最終盤に学ぶテーマであったことが主な原因であろう。なかでも問3 [30]は正答率がわずか15.5%にとどまったが、これは3つの短文すべてを正誤判定しなければならない形式だった点が多い。

第6問 労働問題

まずまずの出来であった。やや難しい設問以外は正答できている。

大問としての得点率は50.6%と、まずまずであった。5問中3問で正答率が50%を超えたのは健闘したと言えるだろう。労働問題についての知識は生きるうえで極めて重要なものなので、その点でもしっかり学びたい。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆模試の結果をよく分析しよう。**

模擬試験はあくまで学習の到達度を確認するための手段であるから、その結果に一喜一憂するのは本末転倒である。悪い結果をいたずらに嘆く必要はないし、よい結果で過度に喜んで仕方がない。正答できなかった設問については、自分の何が足りなかったかを分析する素材とすべきだし、正答できた設問についても、理解が正しかったかどうかを確認し、学習方針の修正などをするための素材として利用すべきである。しかし現実には、多くの受験者は、せっかく集中して模擬試験を受けても、満身に解説すら読んでいない。これは、せっかく種を撒いたのに収穫するのを忘れてしまったようなもので、じつ

にもったいないことである。模試は受けたあとに勝負が始まるものと心得ておいてほしい。

◆次回の模試に向けて。

毎回強調していることだが、一刻も早く全範囲に目を通そう。分からない箇所はそのままでいいし、極端な話、教科書のページをめくるだけでもいい。「倫理、政治・経済」という科目で何を学習しなければならないのかということの大雑把につかみ、学習の見通しを立てよう。学習がある程度後回しになってしまうことは科目の特性上やむをえないが、同じように後回しにするにしても、科目の大まかな内容と特性、それに自分の客観的な実力を把握したうえで当面他教科に力を注ぐことと、ただ漫然と後回しにするのではまるで意味が違う。自分なりのビジョンをもって学習を進めよう。